

特別セッション

世界から見る原子力発電所の安全 ～「原子力発電の安全は今」～

Nuclear Power Plant Safety Now

(1) 挨拶・開催の趣旨

(1) The purpose of session

*駒野康男¹ 宮野 廣²¹日本原子力学会会長、²法政大学

抄録 福島第一原子力発電所の事故から7年がたった。原子力発電所の安全は、事故後どのように変わったのか。世界の原子力発電の安全の確保をはじめ、わが国での安全の確保はどのように進展しているのかを、様々な視点から見て、学会として専門家の目線でその安全を確認する。

キーワード：原子力発電所の安全，福島第一の事故の反省，様々な世界の視点

Nuclear Safety, Lesson and Learn from Fukushima-Daiichi Nuclear Power Station, View Points of the World

1. 緒言

福島第一の事故以来7年が経過し、世界の原子力発電所も必要な処置をとり、順調に運用を続けている。わが国の60基あった原子力発電所は、22基が廃炉に、再稼働が9基、原子炉設置許可済みが6基、新規制適合審査中が11基、未申請が12基の状況である。多くの安全策を付加して、関西電力の高浜3/4号機、大飯3/4号機、九州電力の川内1/2号機、玄海3/4号機、また四国電力の伊方3号機の計9基が稼働しているが、今後順次、再稼働していくものと推察される。このような状況の中で、原子力学会は改めて、運用されている原子力発電所の安全の状況を広い学会の立場で、様々な視点から分析し、それを確認し社会に発信しなければならないと考える。

2. 「原子力発電の安全は今」を分析する

今、世界で稼働している原子力発電所の安全策はどのようになっているのか。福島第一の事故の後、わが国の安全確保への見方は大きく変わり、基準の見直し、数多くの取り組みの見直しが実行されている。具体的にどのように安全確保が成されているのか、世界の目線としてWANOの視点からと、わが国での状況を、運用している事業者の目線、受け入れる社会の目線、科学、学術を担う学の目線から、とらえているところを示してみたい。原子力学会は広い分野から、研究を担う部門は、発電炉部会、社会・環境部会、原子力安全部会など19部門で構成されている。原子力発電の安全を担う責任の一翼を担っているものであり、学会としての安全確保の状況を共有したい。

①世界の原子力発電所についての状況を世界の原子力発電所の安全を担うWANOからの報告

②わが国の原子力発電所の取り組みの状況を、代表して関西電力（発電部会で調整）から報告

③原子力発電所の再稼働に当たり社会からはその安全についてどのように受け止められ、どのような問題提起がなされているのか、社会科学の視点からの見解

④包括的に原子力発電所の安全確保についての福島第一事故の後の日本の原子力発電を中心に世界との比較として学術的な評価と見解

この結果を、今後の取り組みの参考とし、更なる安全性の向上に活かしたい。

3. 結言

安全のレベルは高い。しかし、常に安全性の向上に取り組むことが肝要である。

*Yasuo Komano¹, Hiroshi Miyano²

¹Chair of Atomic Energy Society of Japan, ²Hosei Univ.